



202400913

『子離れの必要性』ってどう考えますか？

今年の夏休みはいつもより少し長く、生徒達はゆっくり出来たことだと思います。しかし、保護者の皆さまにおかれましては、「早く学校が始まってほしい・・・！！」という声もあったようにも感じています。皆さまの御理解と御協力に感謝申し上げます。児童、生徒達は2学期が始まり、いつもの学校生活を思いだし先生達と共に元気に楽しく笑顔で頑張っています！

さて、ほしみ高等学園では、現場実習も動き出しています。小学部ではまだ早い?と感じる保護者もいるかもしれません。また、少し耳が痛い内容になるかもしれませんが、とても大切なことなので読んでいただき、これからの進路を考える『きっかけ』になってほしいと思います。

私は教諭時代から『進路とは、本人、家族が共に未来に向けてしっかり向き合うこと』と考えています。本校に通っている生徒の多くは、いずれは親元を離れて生活をする日が来ると思います。それは「好む」「好まない」にかかわらず訪れます。その時にお子さんが辛い思いをしながら親と離れるのか、それとも将来への希望を持って離れるのかを考えたことがあるでしょうか？「今の生活のことで精一杯、そんな先のことは考えられない！」と思われる方もいるかもしれません。大きなお世話かもしれませんが。ごめんなさい。しかしこの機会に、少し考えてみませんか？

子どもと密接に過ごす期間が長ければ長いほど、お互いに環境の変化に適應することが難しくなります。そうならないために、「自立心」を徐々に子どもに持たせる、持ってもらえるようになることが必要です。つまり、「子離れ」が必要だと思うのです。言うは易く行うは難しで、「この子なしでの生活は考えられない」「この子の世話をすることが私の人生」と思われる方もいるかもしれません。しかし、お子さん達は確実に心も体も日々成長しています。生活面では色々な世話や支援が必要かもしれませんが、今はデイサービス、ショートステイなどを利用したり、ヘルパーさんと外出したりするなど自宅以外で過ごす機会も増えてきています。これは、いつまでも親と一緒に生活を過ごすだけでなく、社会や地域の様々な人と関わりを持つ中で「自立心」を持つきっかけになると考えています。子どもに自立心を持たせようと意図的にこのようなサービスを利用することはとても素晴らしいことだと考えています。親が少し勇気をもって「子どもは成長しているんだ」「自立という成長の時が来ているんだ」と考え、お子さんとの距離を少しずつ離してみませんか？単純に子どもに近づくことを減らすということではありません。何でも子どもの考えや行動に対して先回りして手伝ったり世話をしたりするのではなく、子どもから発してきた要求を尊重し、自分で考えたり行動できることは本人に任せる。子どもが要求してきたことで、本当に親がしなければならないことを手伝うことにする。家庭生活の全てを一緒に過ごすのではなく、一人の時間も保障するなど、そのようなことも私は必要な時期にきていると考えています。ほしみ高等学園の3年間で、しっかり卒業後を見据えた「進路」を保護者と私たちがしっかり向き合い、対話をして行動しながら一緒に考えていきましょう。今回の内容が「耳が痛い話」で終わらず、今から少しずつ考えるきっかけになれば幸いです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

今月は3連休が2回あります。皆さんゆっくりリフレッシュしてまた元気に笑顔で会いましょう！！